



主を知る知識を 日本に満たせ!

リバイバル・ジャパン編集長

谷口和一郎

2007年の新年、ひとりで主の前に祈っていると、心に語り掛けてくる言葉がありました。「主を知る知識をこの地に満たせ。」主からの言葉だと感じましたので、聖書を開いてみると、イザヤ書とハバクク書にその言葉がありました。

「水が海をおおっているように、主を知る知識が地に満ちるからである。」(イザヤ書11章9節)

この日本に主を知る知識が満ちていく、海のように日本全土を覆う。そのイメージが与えられ、翌年、「伝道」をテーマとした雑誌「リバイバル・ジャパン」を創刊しました。

当時、まず感じたのは、私たちは語るべき福音を本当に理解しているのだろうか、ということ。「福音」と言うけれど、それを言葉にして未信者にどう語ればよいのか。そこで、誌面上に「福音とは何か?」という様々な牧師方によるリレー連載を設け、創刊以来4年近くにわたって継続して参りました。

その間に、3・11東日本大震災が起きました。私たちも現地に足を運んで取材をしてきましたが、そこで分かったのは、今回の被災地域には教会が少ない、あっても信徒が少なく自立もままならない教会がほとんどである、という現実でした。日本の多くの教団は、この宣教が難しい地域には手を伸ばしてこなかったのです。

岩手県の沿岸地域でボランティア活動を続けてきた一人の青年が言ったそうです。「この地域の方々は(神を)信じないんじゃないありません。信じないも何も、(福音を)聞いたことがないんです!」非常に意味深い言葉だと思います。そして実は、今回の被災地域だけではなく、日本中のほとんどの人がまだ福音を聞いたことがないのではないのでしょうか。

では、福音はどのようにして広まるのでしょうか。教会の無い市町村すべてに教会を建て、全戸にトラクト配布をすればいいのでしょうか。それも大切な働きではありますが、短いトラクトの文章を読んでそれで福音が分かった、という人はほとんどいないでしょう。

使徒の働き2章には、あのペンテコステの日の出来事が書かれています。そこに集まっていたガリラヤ出身の弟子たちは、激しい風のような音と共に聖霊に満たされました。そして他国の言葉で神の大いなる御業を証しし始めました。またペテロは、大群衆を前に福音を明快に解き明かしました。人は十字架による罪の赦しを受け、死者の中から復活するという「福音」そのものでした。

外国語による証しも、ペテロの説教も、相手が理解できる言葉でした。聞いている側は何を言っているのか分からない「異言」ではなく、聞く側が理解できる「預言」でした。「その日、わたしのしもべにも、はしためにも、わたしの霊を注ぐ。すると、彼らは預言する。」(使徒2:18)とある通りです。

聖霊が降るとき、心の目が開かれて福音が理解できるようになります。そしてそれを、相手が理解できる言葉で語れるようになるのです。私たちも聖霊に満たされて神のことばを預かり、語って参りましょう。神の国のために、そしてイエスのために!